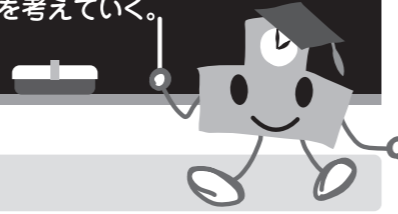


小学校の事例 東区 丘珠小学校

植樹・花や野菜の栽培など 身近なことから環境意識を育む。

「こども環境サミット」で世界各国の子供たちと桜を植樹。
3年間継続し取組んできた。
今後は形を変え、各教科に取り込みながら環境教育の取組を考えていく。



内容 エゾヤマザクラの苗木を100本植樹

平成20年、子供たちにとって身近な存在であるサッポロさとらんどに、「こども環境サミット」の開催期間に合わせて東区の市民グループが、エゾヤマザクラの苗木100本を植樹した。その際、地域の小学校数校とともに本校も参加した。苗木は、北海道千本桜運動で同グループに贈られたものである。サミットに参加した世界各国の子供たちと交流しながら、150メートルの距離に等間隔で苗木を栽植し、スコップで土をかけ、順調な成長を願った。初めはイベントとして1回限りの取組の予定だったが、継続することが大切と、植樹活動は3年間続いた。しかし、授業時数や費用面の課題があり、平成22年度で終了する。



植樹の様子

課題 費用と学習時間をクリアしていけると

今後は、総合的な学習の時間のカリキュラムの見直しをして、環境教育がどのくらい効果があるのかを見極めていきたい。時数のやりくりの工夫に加え、費用の補助などがあれば、色々なことに取組めると思う。教科間で目標を統一し、各教科にどう取り込むか、子どもが自分自身の生活との関わり合いの中で環境意識を根付かせるには、教員・大人からの働きかけが必要である。

教科として位置付いていない環境教育は、既存の教科とリンクさせ、組み立てていくための時間と労力がかかる。たとえば環境バスのようなものももっと、幅広く利用できるようになるとよいのではないかな。

特に子どもに実体験させられる機会を増やすことが大切である。実感することで強く興味・関心をもち、自主的に取組む姿が見られることを期待している。



花を植えているところ

今後 身近なものを活用し 環境への意識を育む

本校では栽培活動が盛んで、以下のような取組も行っている。

「マイフラワー・マイタウン」活動

この活動は東区の取組で、区から種を提供してもらい植栽するというもの。地域の方からプランターや温室用の花などの寄贈があるなど、学校と地域との距離が近い取組である。子供たちからも熱心に水やりを取組むなど自発的な行動も見られる。

タマネギ栽培(3年生)

身近な環境を学ぶことから始めようと、地域の4家庭(うち3家庭に本校児童が在籍)から畑を借りたり、タマネギの苗をいただいたりして、タマネギを栽培している。収穫の時期が近づく作業に対する指導をもらえるなど、協力体制が非常に整っている。この活動から環境に関する視点を広げていければと考えている。

今後は、教科や生活とのつながりを意識し、家庭や地域の協力を得ながら、さらなる発展を目指していきたい。



タマネギ栽培の様子

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

本校は、初代の校長先生が私財を売却し、学校を建てたという経緯があり、地域とのつながりがとても深く、活動の支えとなっています。環境教育を始め、様々な取組を行う上で、地域の協力は大変重要です。普段から、地域との交流・つながりを大切にし、地域に信頼され、愛される学校をめざしています。